

グローバル・メディア研究科
(2022年度以降入学者)

01

グローバル・メディア専攻 (2022年度以降入学者)

Global Media

(1) 修士課程

● 目的

グローバル・メディア研究科修士課程は、本学建学の理念に基づき、メディアとコンテンツに関わる高度な学際的研究能力、専門的職業能力を有する人材の育成を目的とする。

これを敷衍すると、グローバル・メディア研究科は、グローバルに発展するメディアの最新動向に関する幅広い知識と実践的な英語力を有する、以下のような専門的な人材の育成を目指している。

- ① 経営・産業動向などを分析し、メディアの利活用に関し専門的な視点から提案できる人材
- ② メディアとコミュニケーションの社会的・文化的な影響に関する専門的な知識を有する人材
- ③ メディア分野の新しいサービスに関する専門的な知識を有する人材

● 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

グローバル・メディア研究科は、教育の理念にもとづいた下記3つの能力・知識のいずれかを身につけ、所定の期間在学し、各研究科各専攻が定める所定の単位を修め、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、「修士(メディア学)」の学位を授与する。

DP：ディプロマ・ポリシー

(DP1)	分析・提案能力
	経営・産業動向などを分析し、メディアの利活用に関し専門的な視点から提案できる能力。
(DP2)	メディアとコミュニケーションの専門知識
	メディアとコミュニケーションの社会的・文化的な影響に関する専門的な知識。
(DP3)	新サービスの専門知識
	メディア分野の新しいサービスに関する専門的な知識。

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

グローバル・メディア研究科修士課程では、「修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に掲げた3つの能力を養成するため、メディアとコンテンツに係る学際領域について、(1)経営・産業面でのメディアの利活用、(2)メディアとコミュニケーションの社会的・文化的影響、および、(3)メディア自体のイノベーション、という3つの側面を有する科目群から構成される教育課程を提供する。いずれの側面も学際性が高く、さらには、社会経済のグローバル化とデジタル化の進展に伴い、それら3つの複合領域となる研究課題も生じている。そのような学際領域での教育に対応する広範囲な分野で講義科目群を設置し、分野が異なる複数教員の演習科目の履修による論文指導を実施する。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、上記3つの側面に関する基本的知識を身につけ、学際研究のための理論的・実践的基盤を築くために開講する。
- 2) 演習科目は、上記3つの各側面、あるいは、それらの複数の側面にまたがる領域に関し、自らの専門領域や研究課題に応じて、指導教員を中心とする複数教員が修士論文執筆に必要とされる研究指導を行う。
- 3) 上記1および2の集大成として提出される修士論文を完成させ、それについて、審査及び最終試験を実施する。

2. 教育方法

- 1) 「経営・産業のメディアの利活用」の側面では、グローバル化が進展する産業界、公共団体等の非営利セクター、そして地域社会等、社会全体がメディアとコンテンツの創造的活用によって革新を推進するための方策を考究する。
- 2) 「メディアとコミュニケーションの社会的・文化的影響」の側面では、企業、政府、NPO等がグローバル展開を志向する際に不可欠な異文化理解を高める教育研究を押し進める。
- 3) 「メディア自体のイノベーション」の側面では、次世代の革新的メディアとコンテンツの制作等に関わる原理、方法と実践を考究する。
- 4) 上記3つの各側面、あるいは、複数の側面にまたがる領域で研究を行うには、複数の学問領域を必要とする。このため、指導教員を含む複数教員の演習科目を履修可能とし、2年間に渡って学際的な能力を涵養する。
- 5) 修士論文の審査においては、指導教員を主査、他の教員2名を副査とする審査委員が、「学位論文審査基準」に則り厳格に審査する。なお、研究テーマによっては、副査1名を研究科外部から選出する。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力を身につけていることを詳細に確認する。

6)研究倫理教育は、一般的な内容については e ラーニングによる受講とし、専門分野に特有の研究倫理については、各演習プロジェクトにおいて指導する。

3. 評価

グローバル・メディア研究科修士課程では、研究科が定める修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシーに基づき、個々の講義および演習科目担当者が評価を行うとともに、研究科が定める「修了の要件」および「学位論文審査基準」に従い、修得単位数、および修士論文の審査結果を踏まえて、研究科委員会で審議する。

● 修了の要件

修士課程に2年以上在学して、講義・演習科目を合わせて30単位以上修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

年次	必修科目		選択科目	合計
1年次	指導教員の演習4単位	指導教員以外の演習2単位以上	講義10単位以上	30単位以上
2年次	指導教員の演習4単位			

● 履修上の注意

- 履修科目の選択に当たっては、各分野の指導教員の指導を受け、研究テーマに関連の深い科目を網羅すること。
- 各分野の指導教員が必要と認めた場合には、大学院の正規講義科目以外に学部で開講している関連基礎科目の特別履修を課すことがある。ただし、関連基礎科目の単位認定はしない。
- 他系統学部出身者には、当該専攻に関わる学部出身者と同等の基礎学力を充足させるため、大学院の正規授業科目以外に指導教員が必要と認めた場合、学部で開講している関連基礎科目(指導教員の指定する科目)の特別履修を課すことがある。ただし、関連基礎科目の単位は認定しない。
- 一度単位を修得した科目は、担当者が異なっても再度履修することはできません(指導教員の演習科目を除く)。

● 学位論文について

〈中間発表・報告会〉

修士2年次の9月に中間発表会、1月に公聴会を実施する。

〈学位論文審査基準〉

- 問題の所在が明確に示されているか。問題設定は適切であるか。(テーマの妥当性・適確性)
- 先行研究の検討は十分になされているか。修士論文との関連性は妥当か。(既存成果との関連妥当性)
- 仮説等の設定は適確か。データの収集の方法は適格で信頼がおけるか。(方法論上の適確性、データの信頼性)
- 叙述は論理的かつ緻密になされているか。論文としての形式に適合しているか。(叙述の適確性)
- 学位論文として創意工夫があるか。独創性があるか。(独創性)

〈論文審査・学識確認〉

主査1名、副査2名で構成され、副査2名のうち1名については、専門分野等の関係が必要が生じた場合は学外の専門家から選出する。最終試験は、提出された論文を踏まえ、審査員が、口頭試問形式により学識確認を行う。

なお、論文作成要領・提出要領と、提出された論文の取扱いについては、21ページ以降を参照すること。

● プロジェクト指導制

- グローバルに発展するメディアの最新動向に関する幅広い知識と実践的な語学力を有する専門的な人材の育成を目指すプロジェクト指導制をとる。
- 演習科目では、複数の指導教員から自身の研究分野に関するアプローチについて指導を受けることができ、専門性の高い研究にも、学際性の高い研究にも対応できる。
- 様々な専門分野の指導教員のもと、ビックデータ解析やテキストマイニング等を用いた社会・経営研究、AIが文化や政治経済へ与える影響など、文理融合分野での研究も可能となる。
- 1年次終了時までには修士論文のテーマを設定する。その後は、複数の教員からのアドバイスを受けながら、専門分野の最も近い教員が、修士論文の作成を指導する。

● ルーブリック【修士論文・課題研究】

DP	評価項目	評価の視点	S	A	B	C
(DP1) (DP2) (DP3)	1) 研究主題の 設定理由・ 目的の明確性	発展可能性	より重要な研究へと発展 することが確実なテーマ である	より重要な研究へと発展 することが可能なテーマ である	より重要な研究へと発展 する可能性の有無につい てははっきりしない	より重要な研究への発展 する可能性の見込めない テーマである
		目的の明示	研究の目的が明確に述べ られており、その目的の ために当該研究で何をど う進めていくのかという プランも明確にされてい る	研究の目的は述べられて おり、その目的を達成す るためにどのように進め ていくのかもほぼ明らか である	研究の目的はおおよそ述 べられているが、その目 的を達成するためにどの ように進めていくかはや や不明確である	研究の目的が明確には述 べられていない
(DP2) (DP3)	2) 研究の社会的意義・ 貢献性	研究の社会的意義・貢 献性	現代社会、国際社会にお ける課題の解決や理解の 深化に直接関連するテー マを設定している	現代社会、国際社会にお ける課題の解決や理解の 深化に関連するテーマを 設定している	現代社会、国際社会にお ける課題の解決や理解の 深化にほとんど関連しな いテーマを設定している	現代社会、国際社会にお ける課題の解決や理解の 深化とは無関係なテー マを設定している
(DP2) (DP3)	3) 研究の主体性・ 独自性	独自性	関連する先行研究を網羅 した上で、当該論文の テーマが独創的であるこ とが明確に示されている	関連する先行研究に当該 論文と類似するテーマが ないわけではないが、独 自性を有すると認められ る	すでにほぼ同様のテー マの先行研究があるが、 独自性を有するとも言え る	すでに、同様のテーマの 先行研究が存在しており、 独自性は認められない
(DP1)	4) 研究方法論の 適切性・妥当性	計画・準備	指導教員との協議を通し て研究計画書を作成し、 研究レビュー、データ収 集、分析、執筆など具体 的な活動をいつ実施する か明確である	指導教員との協議を通し て研究計画書を作成し、 研究レビュー、データ収 集、分析、執筆など具体 的な活動をいつ実施する かほぼ明確である	指導教員との協議を通し て研究計画書を作成した が、研究レビュー、デー タ収集、分析、執筆など 具体的な活動をいつ実施 するかやや不明確である	いつ何をどこまで進める か研究計画が立てられて いない
		研究倫理	研究に関わる倫理上の問 題について、大学が指定 した研究倫理eラーニン グを受講し、十分に考慮 し、必要な対応を済ませ た上で、研究活動を行っ ている	研究に関わる倫理上の問 題について、大学が指定 した研究倫理eラーニン グを受講し、十分な考慮 と必要な対応を行いつ つ、研究活動を行っている	大学が指定した研究倫理 eラーニングを受講した が、研究に関わる倫理上 の問題への考慮・対応が 十分とはいえない	大学が指定した研究倫理 eラーニングを受講して おらず、研究に関わる倫 理上の問題について検討 していない
		研究方法の 適切性	研究目的を達成するた めに最もふさわしいと考 えられる研究方法を選択 している	研究目的を達成するの に適していると考えられ る研究方法を採用してい る	研究目的を達成するの にふさわしい研究方法で あるかやや疑問である。 あるいは他にさらに適 当な方法が存在してい る	研究目的と研究方法が合 致していない
(DP2) (DP3)	5) 引用された文献・資 料の十分性・適切 性・妥当性	データ・ 資料の量	研究目的を達成するた めに選択した研究方法、分 析方法を実施するのに十 分適合する量のデータ・ 資料を収集している	研究目的を達成するた めに選択した研究方法、分 析方法を実施するのにほ ぼ十分な量のデータ・資 料を収集している	データ・資料を収集して いるが、選択した研究方 法、分析方法を実施す るのに十分な量とはい づらい	収集した量のデータ・資 料では、選択した研究方 法、分析方法を実施でき ない
(DP1)	6) 結果考察の妥当性	結果の表現	結果を適切に表現するた めに、適切な図表等が作 成・配置されている	結果を適切に表現するた めに必要な図表等がお おおよそ作成されており、 ほぼ問題なく配置されて いる	結果を表現するために図 表等が用いられている が、必要とはいえないも のや冗長なものがあった り、ないために理解し にくい箇所がある	結果を表現するために必 要な図表等がほとんど作 成されていない
(DP1)	7) 論旨の一貫性・連続 性・論理性	結果の解釈 とまとめ	参考資料や得られたデー タに基づいて客観的で公 平な解釈をおこなってい る。予想や仮説に一致し ない結果も重要な結果と して捉えている	参考資料や得られたデー タに基づいて客観的で公 平な解釈をおこなってい る。予想や仮説に一致し ない結果は例外として処 理している	結果の解釈そのものに 歪曲はないが、一部に予 想や仮説に一致した点 だけを結果として捉えて いる箇所がある	予想や仮説に一致する 結果だけを報告している。 あるいは結果の解釈に一 部歪曲が認められる
(DP2) (DP3)	8) 当該専門分野にお ける先行研究の成果を 十分に踏まえている か	成果の水準	当該分野において、これ まで解決できなかったこ とを解決する知見、ある いは新しい事象の発見を 参考資料や得られたデー タに基づいて提供してい る	当該分野において有意義 な知見や発見を参考資 料や得られたデータに基 づいて提供している	得られた知見が、当該 分野において有意義な ものといえるかどうか、 やや疑問が残る	当該分野において有意義 な知見が得られたとはい えない
(DP1)	9) 独自の研究成果が学 術論文の形式でまと められているか	記述法・ ルール	論文の本文は学術的な記 述法で書かれ、当該分 野の学会で一般的に利用 されている執筆規定に従 って書かれている	論文の本文は学術的な記 述法で書かれ、当該分 野の学会で一般的に利用 されている執筆規定にも ほぼ従っている	論文の本文は学術的な記 述法で書かれたという には不十分であり、当 該分野の学会で一般的 に利用されている執筆 規定に従っていない部 分がある	論文の本文は学術的な記 述法で書かれておらず、 当該分野の学会で一般 的に利用されている執 筆規定にもあまり従っ ていない

■… 研究計画書や中間発表の時のみのチェック項目

第一章
第二章
第三章
仏教
国文
英米文学
地理
歴史
社会
心理
経済
商
公法
私法
経営
論議領域の2022
年度入学者
論議領域の2021
年度入学者
GM2020T
年度降入学
GM2022
年度降入学
GM2022
年度降入学

● 開講科目

科目名称	学習方法	単位数	開講期間	担当者	DPとの関連性			備考
					DP1	DP2	DP3	
リサーチイングリッシュ	講義	2	前期	アシュウェル, T.		◎		
リサーチジャパニーズ	講義	2	後期	杉 森 建太郎		◎		
グローバル・メディア産業論	講義	2	前期	西 岡 洋 子	◎		○	
グローバル・マネジメント論	講義	2	後期	各 務 洋 子	◎		○	
メディア・ファイナンス論	講義	2	後期	山 口 浩	◎		○	
グローバル・マーケティング論	講義	2	後期	朴 正 洙	◎		○	(本年度休講)
グローバル映像文化論	講義	2	後期	テヅカ ヨシハル	○	◎		
グローバル・メディア社会史	講義	2	後期	高 媛	○	◎		
グローバル・リレーションズ論	講義	2	前期	芝 崎 厚 士	○	◎		
ヒューマンインタフェース・メディア論	講義	2	前期	青 柳 西 蔵				
モバイルユビキタスコンピューティング論		2	後期	石 川 憲 洋	○		◎	
次世代メディア・コンテンツ構成法	講義	2	前期	吉 田 尚 史	○		◎	
コンテンツ情報処理	講義	2	後期	平 井 辰 典	○		◎	
グローバル・デジタルネットワーク論	講義	2	前期	服 部 哲	○		◎	
グローバル・経済政策論	講義	2	後期	星 野 真	◎		○	(本年度休講：在外研究)
グローバル・産業経済論	講義	2	前期	絹 川 真 哉	◎		○	
情報法研究	講義	2	前期	松 前 恵 環	◎		○	
政治家とグローバル・メディア	講義	2	後期	梅 田 道 生	○	◎		
GM特別研究(経営・経済1)Ⅰa・b	演習	各2	前期・後期	各 務 洋 子	◎		○	1年次配当
GM特別研究(経営・経済1)Ⅱa・b	演習	各2	前期・後期		◎		○	2年次配当
GM特別研究(経営・経済2)Ⅰa・b	演習	各2	前期・後期	絹 川 真 哉	◎		○	1年次配当
GM特別研究(経営・経済2)Ⅱa・b	演習	各2	前期・後期		◎		○	2年次配当
GM特別研究(経営・経済3)Ⅰa・b	演習	各2	前期・後期	西 岡 洋 子	◎		○	1年次配当
GM特別研究(経営・経済3)Ⅱa・b	演習	各2	前期・後期		◎		○	2年次配当
GM特別研究(経営・経済4)Ⅰa・b	演習	各2	前期・後期	朴 正 洙	◎		○	(本年度休講)
GM特別研究(経営・経済4)Ⅱa・b	演習	各2	前期・後期		◎		○	(本年度休講)
GM特別研究(経営・経済5)Ⅰa・b	演習	各2	前期・後期	山 口 浩	◎		○	1年次配当
GM特別研究(経営・経済5)Ⅱa・b	演習	各2	前期・後期		◎		○	2年次配当
GM特別研究(経営・経済6)Ⅰa・b	演習	各2	前期・後期	星 野 真	◎		○	(本年度休講：在外研究)
GM特別研究(経営・経済6)Ⅱa・b	演習	各2	前期・後期		◎		○	(本年度休講：在外研究)
GM特別研究(情報1)Ⅰa・b	演習	各2	前期・後期	石 川 憲 洋	○		◎	1年次配当
GM特別研究(情報1)Ⅱa・b	演習	各2	前期・後期		○		◎	2年次配当
GM特別研究(情報2)Ⅰa・b	演習	各2	前期・後期	服 部 哲	○		◎	1年次配当
GM特別研究(情報2)Ⅱa・b	演習	各2	前期・後期		○		◎	2年次配当
GM特別研究(情報3)Ⅰa・b	演習	各2	前期・後期	吉 田 尚 史	○		◎	1年次配当
GM特別研究(情報3)Ⅱa・b	演習	各2	前期・後期		○		◎	2年次配当
GM特別研究(情報4)Ⅰa・b	演習	各2	前期・後期	平 井 辰 典	○		○	1年次配当
GM特別研究(情報4)Ⅱa・b	演習	各2	前期・後期		○		○	2年次配当

科目名称	学習方法	単位数	開講期間	担当者	DPとの関連性			備考
					DP1	DP2	DP3	
GM特別研究(情報5) I a・b	演習	各2	前期・後期	青柳 西蔵	○		○	1年次配当
GM特別研究(情報5) II a・b	演習	各2	前期・後期		○		○	2年次配当
GM特別研究(人文・社会1) I a・b	演習	各2	前期・後期	アッシュウェル, T.	○	◎		1年次配当
GM特別研究(人文・社会1) II a・b	演習	各2	前期・後期		○	◎		2年次配当
GM特別研究(人文・社会3) I a・b	演習	各2	前期・後期	高 媛	○	◎		1年次配当
GM特別研究(人文・社会3) II a・b	演習	各2	前期・後期		○	◎		2年次配当
GM特別研究(人文・社会4) I a・b	演習	各2	前期・後期	テツカ ヨシハル	○	◎		1年次配当
GM特別研究(人文・社会4) II a・b	演習	各2	前期・後期		○	◎		2年次配当
GM特別研究(人文・社会6) I a・b	演習	各2	前期・後期	杉 森 建太郎	○	◎		1年次配当
GM特別研究(人文・社会6) II a・b	演習	各2	前期・後期		○	◎		2年次配当
GM特別研究(政治・法律1) I a・b	演習	各2	前期・後期	芝 崎 厚 士	◎		○	1年次配当
GM特別研究(政治・法律1) II a・b	演習	各2	前期・後期		◎		○	2年次配当
GM特別研究(政治・法律2) I a・b	演習	各2	前期・後期	梅 田 道 生	◎		○	1年次配当
GM特別研究(政治・法律2) II a・b	演習	各2	前期・後期		◎		○	2年次配当
GM特別研究(政治・法律3) I a・b	演習	各2	前期・後期	松 前 恵 環	◎		○	1年次配当
GM特別研究(政治・法律3) II a・b	演習	各2	前期・後期		◎		○	2年次配当

◎：特に重視している ○：重視している

(2) 博士後期課程

● 目的

グローバル・メディア専攻博士後期課程では、本学建学の理念に基づき、グローバルな規模で発展するメディアの最新動向に関する高度な専門的研究能力を有する職業人及び研究者を育成することを目的とする。

これを敷衍すると、グローバル・メディア研究科博士後期課程では、社会科学系・工学系の学問領域を専門とする人材を対象として、メディアに関する学際的な専門知識の上に立った高度な専門的研究・開発能力を有する職業人の育成を目指している。

即ち、グローバルに展開されるメディアの利活用に関する複合的な問題解決について、メディア産業、メディア文化、メディア情報の3つの視点から学際領域上で問題解決的・実践的な教育を行うことによって、新しい研究分野や方法論を開拓し、グローバルな経済社会の諸分野で指導的な役割を果たすことのできる専門家の育成を図る。

具体的には、以下のような人材の養成を目指す。

- ①社会的・文化的影響と情報技術の動向を理解した上で、経営・産業動向などを分析し、メディアの利活用に関して、グローバルな視点にも立って提案できる人材
- ②企業・団体におけるICTの利活用状況と情報技術の動向を理解した上で、グローバルな視点にも立ってメディアとコミュニケーションの社会的・文化的な影響を分析する能力を有する人材
- ③経営・産業動向と各種サービスの社会的・文化的影響を理解し、グローバルな視点にも立って、メディア分野の新しいサービスを開発する能力を有する人材

● 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

グローバル・メディア研究科は、教育の理念にもとづいた下記3つの能力・知識のいずれかを身につけ、所定の期間在学し、各研究科各専攻が定める所定の単位を修め、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、「博士(メディア学)」の学位を授与する。

DP：ディプロマ・ポリシー

(DP1)	分析・提案能力
	社会的・文化的影響と情報技術の動向を理解した上で、経営・産業動向などを分析し、メディアの利活用に関して、グローバルな視点にも立って提案できる能力。
(DP2)	メディアとコミュニケーションの専門知識
	企業・団体における情報通信技術の利活用状況と情報技術の動向を理解した上で、グローバルな視点にも立ってメディアとコミュニケーションの社会的・文化的な影響を分析する能力。
(DP3)	新サービスの専門的知識
	経営・産業動向と各種サービスの社会的・文化的影響を理解し、グローバルな視点にも立って、メディア分野の新しいサービスを開発する能力。

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

グローバル・メディア研究科博士後期課程では、修士課程に引き続き、(1)経営・産業面でのメディアの利活用、(2)メディアとコミュニケーションの社会的・文化的影響、(3)メディア自体のイノベーション、という3つの側面を有する科目群から構成される教育課程を提供し、研究指導科目を単位化して博士論文の完成に導く。指導教員の研究指導科目だけではなく、研究内容に応じて指導教員以外の教員の研究指導科目も履修が可能である。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、上記3つの側面に関する高度な専門知識を身につけ、学際研究のための理論的・実践的基盤を築くために開講する。
- 2) 博士論文指導は、指導教員が中心となりつつも、学際領域に応じて指導教員以外の教員も加わって行う。

2. 教育方法

- 1) 「経営・産業のメディアの利活用」の側面では、グローバル化が進展する産業界、公共団体等の非営利セクター、そして地域社会等、社会全体がメディアとコンテンツの創造的活用によって革新を推進するための方策を考究する。
- 2) 「メディアとコミュニケーションの社会的・文化的影響」の側面では、企業、政府、NPO 等がグローバル展開を志向する際に不可欠な異文化理解を高める教育研究を推し進める。
- 3) 「メディア自体のイノベーション」の側面では、次世代の革新的メディアとコンテンツの制作等に関わる原理、方法と実践を考究する。
- 4) 上記3つの各側面、あるいは、複数の側面にまたがる領域で研究を行うには、複数の学問領域を必要とする。このため、必要に応じ、指導教員以外の研究指導科目を複数履修可能とする。
- 5) 博士論文の提出については、指導教員および研究指導を担当した他教員が、「提出要件」を満たしていることを確認しつつ、進捗状況を把握する。提出された博士論文の審査においては、指導教員を主査、他の教員4名を副査とする審査委員が、「学位論文審査基準」に則り厳格に審査する。

なお、研究テーマによっては、副査2名までを研究科外部から選出する。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力、語学力を身につけていることを詳細に確認する。

6) 研究倫理教育は、一般的な内容については e ラーニングによる受講とし、専門分野に特有の研究倫理については、各演習プロジェクトにおいて指導する。

3. 評価

グローバル・メディア研究科博士後期課程では、研究科が定める修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシーに基づき、個々の講義および研究指導担当者が評価を行うとともに、研究科が定める「修了の要件」および「学位論文の審査基準」に従い、修得単位数、および博士論文の審査結果を踏まえて、研究科委員会で審議する。

● 修了の要件

博士後期課程に3年以上在学し、かつ、所定の科目について18単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。

年次	必修科目		選択科目	合計
1年次	指導教員の研究指導 4 単位	指導教員の講義 2 単位	指導教員以外の講義または研究指導 4 単位以上	18単位以上
2年次	指導教員の研究指導 4 単位			
3年次	指導教員の研究指導 4 単位			

● 履修上の注意

履修科目の選択にあたっては、指導教員の指導を受け、研究分野に関連の深い科目を履修すること。

● 学位論文について

〈中間発表・公聴会〉

中間発表については、博士後期課程2年次に行う。オープンな質疑可能な形で、全てのコースの教員・学生が参加可能にする。公聴会に関しては、提出年度の1月末に、論文審査の前に同様な形式で行われる。

〈学位論文提出要件〉

1. 所定の時期に仮論題を提出し、受理されていること。
2. 国際学会で1件以上の論文を発表していること。

〈事前審査〉

提出年度の初めに、主査が公聴会や論文審査に入るにふさわしい論文であるかを判断する。

〈学位論文審査基準〉

1. 問題の所在が明確で、問題設定が適切であるか。
2. 先行研究の検討は十分になされているか。博士論文との関連性は妥当か。(既存成果との関連妥当性)
3. 仮説等の設定は適確か。データの収集の方法は適確で信頼がおけるか。(方法論上の適確性、データの信頼性)
4. 叙述は論理的かつ緻密になされているか。論文としての形式に適合しているか。(叙述の適確性)
5. 学位論文として創意工夫があるか。独創性があるか、また、グローバル性・学際性が確保されているか。
6. 高度専門職業人として理論と実践の相互関係に配慮されているか。

〈論文審査・学識確認〉

審査員は、主査1名、副査2名以上で構成され、主査は原則として研究指導科目を担当した教員とする。副査4名を選出する。なお、副査2名については、専門分野等の関係で必要が生じた場合は学内(研究科外)・学外の専門家から選出する。これらの専門家は、審査対象の博士論文の研究領域を主査が精査し、学外のグローバルなメディア研究をしている人材を副査に選出する。上記の基準により申請し承認を受けた、論文審査を実施する。最終試験は、審査員が、提出された論文に基づき、口答または筆答による学識確認を行い、外国語試験は予め申請した1か国語(母語は不可)で実施する。審査結果は、研究科委員会において報告される。

なお、論文提出要領等については、25ページ以降を参照すること。

● 開講科目

科目名称	学習方法	単位数	開講期間	担当者	DPとの関連性			備考
					DP1	DP2	DP3	
グローバルマネジメント論特殊研究	講義	2	後期	各 務 洋 子	◎	○		
グローバルメディア制度論特殊研究	講義	2	後期	西 岡 洋 子	◎	○		
メディアファイナンス論特殊研究	講義	2	後期	山 口 浩	◎	○		
グローバル・マーケティング論特殊研究	講義	2	後期	朴 正 洙	◎	○		(本年度休講)
知的財産ビジネス論特殊研究	講義	2	前期	絹 川 真 哉	◎	○		
グローバル・メディア社会史特殊研究	講義	2	後期	高 媛	○	◎		
グローバルリレーションズ論特殊研究	講義	2	後期	芝 崎 厚 士	○	◎		
グローバル映像文化論特殊研究	講義	2	前期	テツカ ヨシハル	○	◎		
ユビキタスコンピューティング論特殊研究	講義	2	後期	石 川 憲 洋	○		◎	
次世代メディアコンテンツ構成法特殊研究	講義	2	前期	吉 田 尚 史	○		◎	
グローバル・デジタルネットワーク論特殊研究	講義	2	前期	服 部 哲	○		◎	
GM研究指導 (人文・社会2) I a・b	研究指導	各2	前期・後期	高 媛	○	◎		1年次配当
GM研究指導 (人文・社会2) II a・b	研究指導	各2	前期・後期		○	◎		2年次配当
GM研究指導 (人文・社会2) III a・b	研究指導	各2	前期・後期		○	◎		3年次配当
GM研究指導 (人文・社会3) I a・b	研究指導	各2	前期・後期	テツカ ヨシハル	○	◎		1年次配当
GM研究指導 (人文・社会3) II a・b	研究指導	各2	前期・後期		○	◎		2年次配当
GM研究指導 (人文・社会3) III a・b	研究指導	各2	前期・後期		○	◎		3年次配当
GM研究指導 (経営・経済1) I a・b	研究指導	各2	前期・後期	各 務 洋 子	◎	○		1年次配当
GM研究指導 (経営・経済1) II a・b	研究指導	各2	前期・後期		◎	○		2年次配当
GM研究指導 (経営・経済1) III a・b	研究指導	各2	前期・後期		◎	○		3年次配当
GM研究指導 (経営・経済2) I a・b	研究指導	各2	前期・後期	絹 川 真 哉	◎	○		1年次配当
GM研究指導 (経営・経済2) II a・b	研究指導	各2	前期・後期		◎	○		2年次配当
GM研究指導 (経営・経済2) III a・b	研究指導	各2	前期・後期		◎	○		3年次配当
GM研究指導 (経営・経済3) I a・b	研究指導	各2	前期・後期	西 岡 洋 子	◎	○		1年次配当
GM研究指導 (経営・経済3) II a・b	研究指導	各2	前期・後期		◎	○		2年次配当
GM研究指導 (経営・経済3) III a・b	研究指導	各2	前期・後期		◎	○		3年次配当
GM研究指導 (経営・経済4) I a・b	研究指導	各2	前期・後期	朴 正 洙	◎	○		(本年度休講)
GM研究指導 (経営・経済4) II a・b	研究指導	各2	前期・後期		◎	○		(本年度休講)
GM研究指導 (経営・経済4) III a・b	研究指導	各2	前期・後期		◎	○		(本年度休講)
GM研究指導 (経営・経済5) I a・b	研究指導	各2	前期・後期	山 口 浩	◎	○		1年次配当
GM研究指導 (経営・経済5) II a・b	研究指導	各2	前期・後期		◎	○		2年次配当
GM研究指導 (経営・経済5) III a・b	研究指導	各2	前期・後期		◎	○		3年次配当
GM研究指導 (情報1) I a・b	研究指導	各2	前期・後期	石 川 憲 洋	○		◎	1年次配当
GM研究指導 (情報1) II a・b	研究指導	各2	前期・後期		○		◎	2年次配当
GM研究指導 (情報1) III a・b	研究指導	各2	前期・後期		○		◎	3年次配当

科目名称	学習方法	単位数	開講期間	担当者	DPとの関連性			備考
					DP1	DP2	DP3	
GM研究指導（情報2）Ⅰa・b	研究指導	各2	前期・後期	服 部 哲	○		◎	1年次配当
GM研究指導（情報2）Ⅱa・b	研究指導	各2	前期・後期		○		◎	2年次配当
GM研究指導（情報2）Ⅲa・b	研究指導	各2	前期・後期		○		◎	3年次配当
GM研究指導（情報3）Ⅰa・b	研究指導	各2	前期・後期	吉 田 尚 史	○		◎	1年次配当
GM研究指導（情報3）Ⅱa・b	研究指導	各2	前期・後期		○		◎	2年次配当
GM研究指導（情報3）Ⅲa・b	研究指導	各2	前期・後期		○		◎	3年次配当
GM研究指導（政治・法律1）Ⅰa・b	研究指導	各2	前期・後期	芝 崎 厚 士	◎	○		1年次配当
GM研究指導（政治・法律1）Ⅱa・b	研究指導	各2	前期・後期		◎	○		2年次配当
GM研究指導（政治・法律1）Ⅲa・b	研究指導	各2	前期・後期		◎	○		3年次配当

◎：特に重視している ○：重視している